

令和6年度 地区小・中学校教育課程研究会 提案資料

部会名 特別活動

令和6年度県央地区小・中学校教育課程研究会研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

体育的行事における自己有用感の育成

地区名 県央地区

所属校 座間市立相模中学校

名 前 石和 卓也

※児童・生徒の写真、ノート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

I 提案

1. 研究のきっかけ

文部科学省は、令和4年12月に示した「生徒指導提要」の中で自己有用感を育む、『児童生徒の教育活動の大半は、集団一斉型か小集団型で展開されます。そのため、集団に個が埋没してしまう危険性があります。そうならないようにするには、学校生活のあらゆる場面で、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切です。また、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や、他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことも極めて重要です。』と述べている。

学習指導要領解説特別活動編では、第4章の第2の4の（1）では、「特別活動における異年齢集団による交流は、各活動・学校行事において大変重要である。」と示されている。また、（2）では「特別活動のいずれの活動も、互いに協力し合い、認め合う中で自分が有用であることを実感するとともに自信をもつ機会となっている。教師は各活動・学校行事の特性を生かし、一人一人の生徒が自己有用感や自己肯定感を体得できるように指導を工夫するとともに、自分のよさや可能性を発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な活動を設定することが大切である。」とも示されている。

また学校教育目標のめざす生徒像の中には、『「自ら学ぶ」自ら学び考え、主体的に判断し、行動できる生徒』と『「思いやる」自他を尊重し、お互いを認め合い共生できる生徒』と示されている。

よって、特別活動の中で異年齢集団による活動で生徒が主体的に活動し、お互いに認め合う場を設定し、自己有用感の育成に寄与したいと考えた。座間市では、「きょうだい学級」という名で縦割りによる異年齢集団を形成し、行事などの取り組みを中心に活動している。本校で異年齢集団の活動が一番活発な体育祭という行事を経て、生徒の自己有用感の育成を目指すことを本研究のテーマとして設定した。

2. 研究校の現状

研究を行った、座間市立東中学校は、各学年が約200人在籍していて、全校では約600人の学校である。毎年10月に全校生徒参加の体育祭を開催している。クラスの生徒全員がリレー種目6種の中から1種目、レク種目とよばれる競技4種目から1種目、各学年のクラス対抗でクラス全員が取り組む大縄、縦割りのきょうだい学級全員で取り組む応援合戦の計4種目に1人の生徒が参加する。体育祭に向けて練習をきょうだい学級で約2週間行い、昼休みも各クラスが大縄の練習を行うなど、どのクラスも熱の入る行事である。

体育祭は、生徒会本部役員4人、各学年学級委員2人、常任委員長4人からなる合計14人の体育祭実行委員がルールなどの取り決めなどを行う。毎年体育祭実行委員を中心にスローガンを決めているが、「5色で東中を染めよう」「最高の体育祭を」など抽象的なスローガンが多く、何を目的として活動するのか明確にならず、勝ち負けに固執してしまう生徒から強い言葉を受けたというトラブルもあった。また、体育祭実行委員が取り決めを行っているが、教員からなる体育祭運営委員会の決めごとをただおろしているところが多く、生徒主体としてはまだ物足りないという印象があった。また、スローガンについても、決めたものの、そのままになってしまい体育祭の取組中に生徒たちがスローガンを意識できていおらず、全校生徒が実行委員の決めたスローガンをもとに活動することができていなかった。

座間市立東中学校



- 日本国憲法・教育基本法
- 学習指導要領
- かながわ教育ビジョン
- 座間市教育大綱
- 豊かな心を育むひまわりプラン

- 生徒の夢や希望
- 地域や保護者の願い
- 教師の願い
- 本校の課題

校訓「生い立て 知恵と力」

学校教育目標

優しく 賢く 美しく

自らの可能性を切り拓く 心豊かな生徒の育成

めざす学校像

- *生徒一人一人が自己肯定感を高め、主体的・創造的に活躍できる学校
- *多様性やインクルーシブ教育の観点から、誰もが輝ける思いやりあふれる学校
- *生涯学び続けることができる課題解決能力を身につけられる学校
- *家庭・地域との相互理解・協力を図り、信頼に応える学校
- *教職員が協力し合い、組織的に教育活動が展開できる学校
- *働き方への意識改革を進め、タイムマネジメントを実践する学校

めざす生徒像

- 「夢をもつ」夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒
- 「自ら学ぶ」自ら学び考え、主体的に判断し、行動できる生徒
- 「思いやる」自己を尊重し、お互いを認め合い共生できる生徒
- 「鍛える」心身ともに健康で、困難に立ち向かえる生徒

めざす教師像

- 「情熱」凡事徹底・率先垂範を励行する教師
- 「信頼」気づいて・寄り添い・受け止められる教師
- 「研鑽」個々の持ち味を發揮し、学び続ける教師
- 「団結」チームとして、教育活動を展開できる教師

学校教育目標を具現化に向けた4つの力

1. 学力向上をめざした授業力 (共に学び続ける学校)

- *基礎・基本の定着
- *ユニバーサルデザインの推進
- *自学自習の徹底
- *GIGAスクール構想による授業革命

2. 生徒による自治活動力 (活気と笑顔あふれる学校)

- *自己指導能力
(自己決定、自己存在感、共感的人間)の育成
- *集団行動からの絆づくり
- *自立から社会貢献への実践

3. 教職員の組織力と機動力 (一枚岩の強靭な学校)

- *共通理解・意識の徹底
- *全員指導の姿勢
- *生徒指導・支援の緊密化
- *整える・揃える・弁える

4. 地域・家庭との協働力 (地域とともにある学校)

- *家庭・地域との信頼関係の構築
- *情報の発信・受信
- *PTA活動への連携と協力
- *コミュニティースクールの開設

令和3年度4月作成

令和4年度 座間市立東中学校の体育祭種目

リレー種目

1. 色別対抗リレー

縦割の1～3年から構成される男子、女子、混合の3種がある。

2. 学級対抗リレー

各クラスでそれぞれ男子、女子、男女混合の3種がある。

レク種目

1. 3人縄跳びリレー

3人1組でペアを組み、外側の2人で縄を回し、中の1人が跳ぶ。

2. 新トライアスロン

フラフープを2つ重ね、1つの円を作り、3人がそれぞれ間に入り、跳ぶイカリングと呼ばれる。その後、縄1本を16人が等間隔でもったゾーンにフラフープのバトンを受け取った生徒が、上下に動かされる縄の上を跳ぶ、下をくぐり進む。その後バトンのフラフープを15人が手をつないだまま、端から端へ渡す。その後、もう一度イカリングでゴールへ進む。

3. ハリケーン

3人1組で棒をもち、スタート地点から指定されたコーンの周りを決められた回り方で回り、バトンをつないでいく。

4. 走れ！東魂

ボールを板に乗せたり、挟んだり、棒でおさえたり、様々な方法で多種のボールを運んでいきながらバトンをつないでいく。

大縄

長縄跳びで、クラスを2グループに分け、制限時間以内に連続で跳べたそれぞれのグループの最高回数の合計を競う。

応援合戦

きょうだい学級全員で1分半の制限時間の中、自分たち考えた応援をそれぞれ演じる。

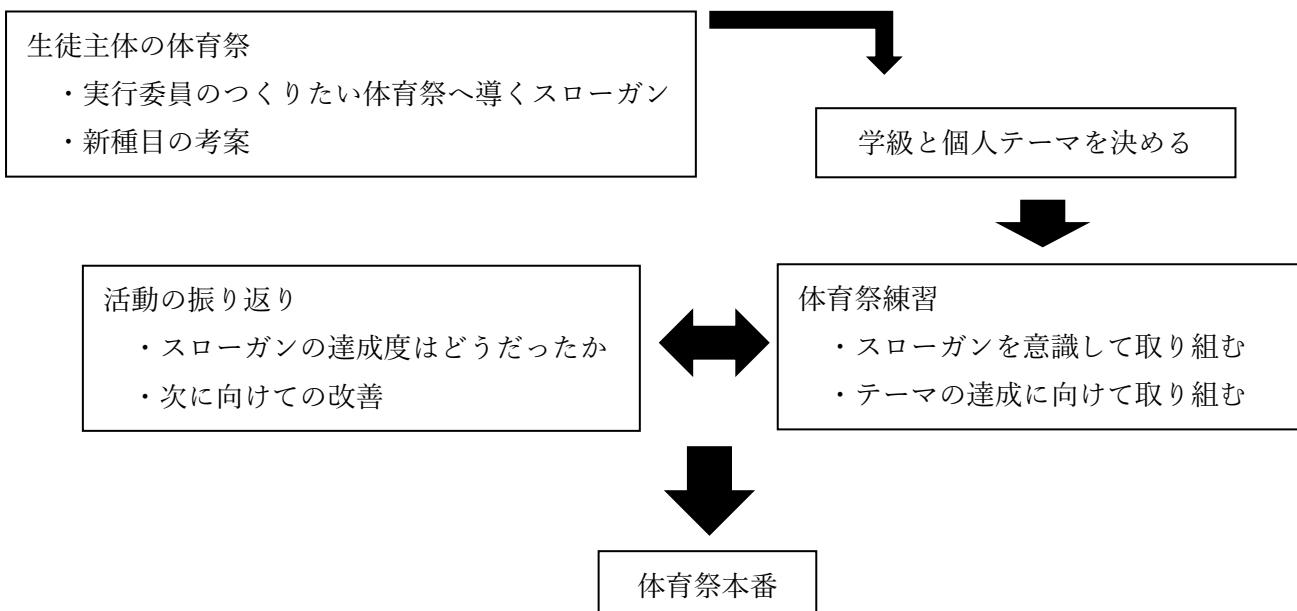
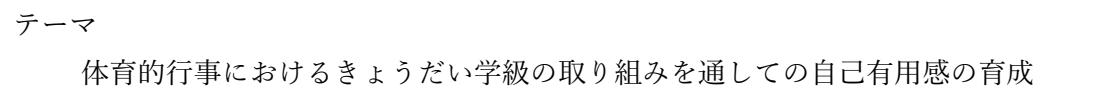
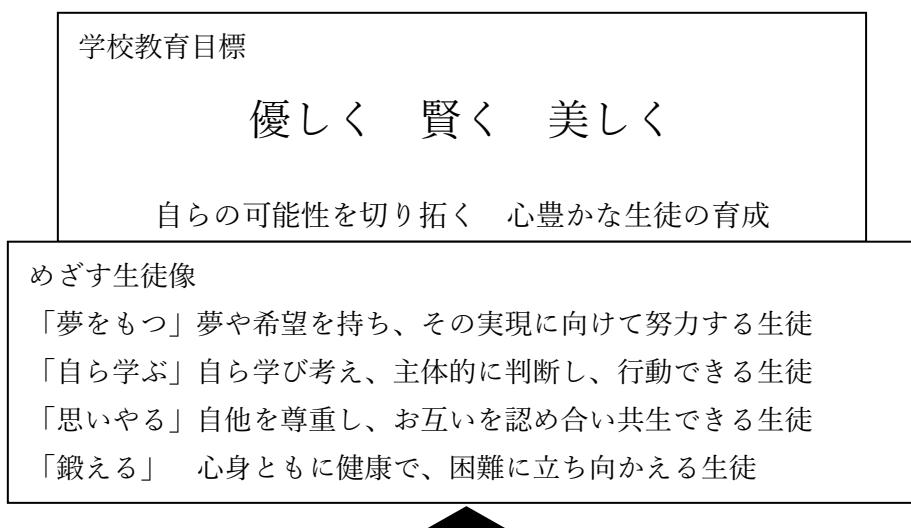
II 研究仮説

1. 研究仮説

まず体育祭が生徒の考え方や思いによって作られるものであるという印象をもってもらい、生徒自身でつくる行事という意識をもたせ、主体的に活動に参加させる。

その上で、体育祭のスローガンを具体的に設定し、体育祭で各生徒が取り組むことを明確化する。さらに、日々の振り返りを行っていくことで、生徒の活動を改善し、スローガンを意識しやすくなり、達成感を感じやすくなる。その積み重ねで生徒の自己有用感の育成につながるのではないか、と考えた。

2. 研究構想

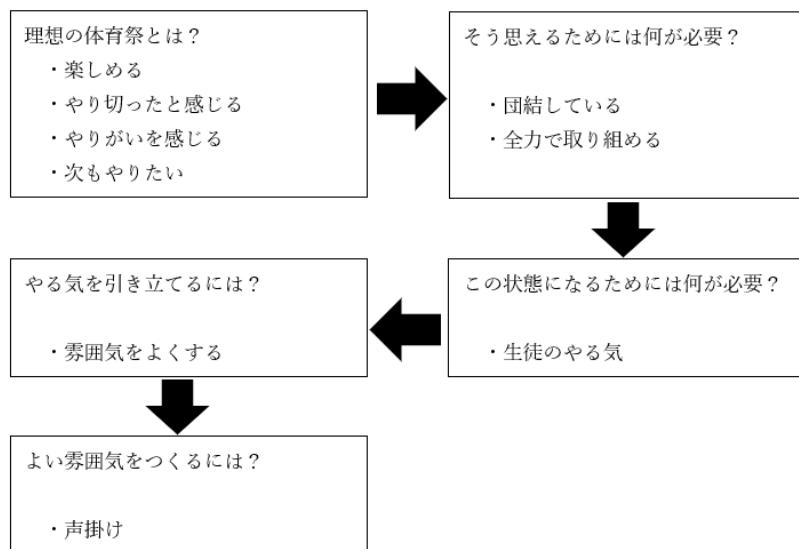


III 研究実践

1. 事前活動

(1) スローガン

今までの体育祭の目標やスローガンは、あまり生徒に意識されずに体育祭の練習を行い、終わってしまうという印象があった。生徒に実行委員が掲げたスローガンに沿って体育祭の活動に取り組ませたい。また、そのスローガンは実行委員の生徒が思い描く理想の体育祭へつながるものにしたいと考え、会議を行った。



自分たちの思い描く体育祭にするためには、「声」が大切なだと話し合えた実行委員は、「声」を大切にしようとだけ伝えると全校生徒に意図が伝わりづらいと考え、更に細かい4つの行動目標を作成した。

スローガン「声」を達成するために行動目標

- ① ささいなことでもお互い褒め合おう
- ② 優しく的確な指示を出そう
- ③ 声を出して全力で応援しよう
- ④ アドバイスを聞いて、次につなげよう

体育祭はもちろん順位が決まる以上勝負ごとになってしまふが、競技の順位だけで良し悪しを決めずには、①～④に掲げた行動目標を「声」というスローガンに基づいて体育祭の活動に参加しよう、それが体育祭成功のために大事なことである、ということを常に生徒に発信し続けた。その活動を続けていくことで、体育祭はみんなにとって楽しく、やりがいを感じるものになるのである。また、みんなが全力を出して、やり切ったと感じ、次もやりたいと思える体育祭になると考える。学年や役割をもつ生徒やもたない生徒で体育祭への関わり方も様々になるので、①～③のように様々な角度でお互いをつなぐ声掛けの目標を設定した。もちろん声を発することが苦手な児童生徒もいるので、そういう子は④の聞くことならできるのではないかなど、生徒自身も様々な生徒が体育祭で達成感を感じられるように配慮をしてくれた。

(2) 新種目づくり

生徒が体育祭の運営により関わることで、「自分たちが作る体育祭」という意識づけをさせたいという思いから、生徒の考える種目を新種目として体育祭で行うという企画をした。本来であれば、全ての種目の決定権があってもよいのだが、時間の関係と初めての試みでもあったので、生徒にいくつか候補を考えてもらうことになった。

- ・生徒が楽しめる
- ・複数回練習があることも踏まえて、練習を行うことで上達の見込みがある
- ・競技に各チームの作戦などの工夫が見れるようにする
- ・異学年でペアを組みながら行える競技であること
- ・危険のない競技にする
- ・各チームで練習を行うことができる

上記のことなど様々なことを考慮して、種目の作成に取りかかったが、楽しさだけに引っ張られて、現実味が薄い種目の案が多く出てしまった。競技の複数の案を教師主体の運営委員会へ提出し、その中の1つを前年度に行ったレク種目の代わりに新種目として実践した。採用されたのは「進撃の赤ちゃん」という競技であった。

競技内容

- ①段ボールキャタピラの中に2人組が入って、ハイハイで進む。
- ②デカパンツに2人組が入り、足を結んだ状態で、跳んで進む。
- ③2人組が2人3脚で走りながら進む。

各色参加する24人の生徒で、上記の①～③を続けて行いトラックを一周する。このセットを4セット行う競技となった。各グループで工夫を凝らしながら練習を重ねるごとに上達する様子がイメージできたこと、危険が少ないなど、上記の要因を満たしていた。また、この種目には、生まれた赤ちゃんが①ハイハイで進む ②オムツ履いて歩く ③走る という人間の成長過程を描いており、制作者のストーリー性が込められた競技というところも評価が高く、採用に至った。



(3) 各クラス、個人のテーマづくり

「声」というスローガンは目標達成へのツールであり、「目標」は生徒それぞれにある。また、色ごとの目標は7月の時点で作成されていたが、クラスや個人の状況もまちまちであると考え、体育祭練習が始まる前に全校で各クラスと個人の体育祭に向けたテーマを作る時間を確保した。その授業を研究授業として行った。そしてここから約2週間、体育祭への取り組みが始まった。

学級活動指導案

座間市立東中学校
指導者 石和 卓也

1 日 時 令和5年10月3日（火） 第5校時（13：35～14：25）

2 学年・組・場所 第2学年2組 38人 教室

3 議題名 体育祭に向けてクラスと個人のテーマづくり
学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画（ウ）
関連：学校行事（3）健康安全・体育的行事

4 議題について

（1）生徒の実態

学級では、自分の意見を躊躇なく発言できる生徒が数名いることもあり、授業内でも自分の意見を伸び伸びと発言できる活発な環境がある。その雰囲気から、新学期より何か活動をする場面では、生徒が前向きに活動している様子が伺える。しかし、誰かの指示なく自分自身で考えて行動することは苦手な生徒が多い。

現在は文化祭や学年行事の取り組みを通して、学級目標にある「轟」という目標達成に向けて、他者の心に残る結果や姿を見せられるように積極的に活動をする姿が見られる。体育祭の活動は昨年度新入生という立場では経験したが、1年生にとっては先輩という立場であり、3年生から見れば後輩という引っ張ることと支えることを両立しなくてはならない身としてはまだ課題がある。

（2）議題設定の理由

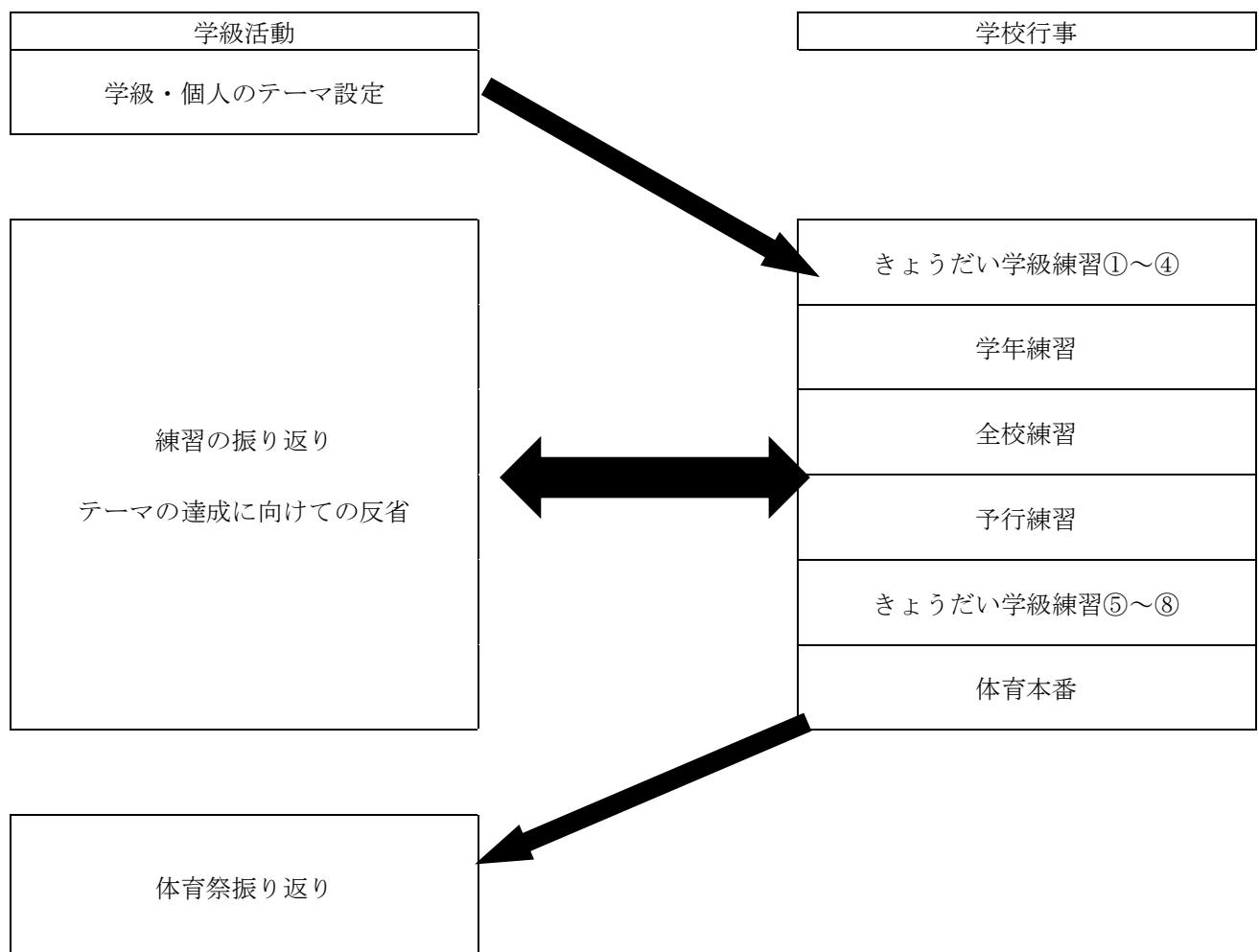
本題材は学習指導要領特別活動〔学級活動〕の2の内容（1）学級や学校における生活づくりへの参画（ウ）である。異学年交流の取り組みを通して自己有用感を育成するためには、具体的に生徒が行動すべき指針を示すことが、重要なのではないかと考えた。

そこで、実行委員の生徒でスローガンを作成し、体育祭で一人ひとりがやるべきことを明確にし、毎時間振り返りを行いながら、生徒が達成感を感じられるようにしていきたい。実行委員の活動を紹介しながら、この体育祭に懸ける実行委員の意気込みと私自身の言葉によって、これから始まる体育祭活動での行動の仕方を明確にしたい。そこから、クラスで体育祭の学級テーマを考える。テーマの実現に向けてスローガンを意識しながら活動することが、今後の生徒の資質・能力の向上に寄与すると考え、本題材を設定した。

5 指導と評価の計画

○評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
体育祭の活動で異年齢により構成される組織における活動の意義やその活動のために必要なことを理解している。	体育祭を通して取り組みたいことを考え、クラスのテーマを作成するために合意形成を図ったり、意思決定したりしている。	体育祭における各学級や個人のテーマの実現に向けて、スローガンに基づきながら、活動に参加しようとしている。
体育祭のスローガンに基づき、各学級や個人のテーマの実現に向けての行動の仕方を身に付けている。	体育祭の活動で組織される異年齢集団や各学級、個人のテーマ実現に向けて、必要なことを考え、意思決定し実践している。	



時 間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学 級 活 動	体育祭に向けてどのように取り組むかを考えよう ・学級・個人のテーマ設定 ・スローガンに基づく活動の仕方の理解		体育祭を通して取り組みたいことを考え、クラスのテーマを作成するためには意形成を図ったり、意思決定したりしている。	
き ょう だ い 学 級 練 習 ① ～ ④	体育祭の練習をしよう	異年齢の生徒も含め、同じ競技に参加する生徒同士で声をかけ合うことの大切さを理解している。	スローガン「声」を意識し、学級や個人テーマの実現に向けて、他者を認め、励まし、改善のためのアドバイスをしている。また、自分に向けた声に耳を傾けている。	体育祭における各学級や個人のテーマの実現に向けて、スローガンに基づきながら、活動に参加しようとしている。
学 年 練 習	学年種目の練習をしよう	同じ競技に参加する生徒同士で声をかけ合うことの大切さを理解している。	学年の仲間と協力し、スローガン「声」を意識し、学級や個人テーマの実現に向けて、他者を認め、励まし、改善のためのアドバイスをしている。また、自分に向けた声に耳を傾けている。	同じ学年の仲間と協力して活動に参加しようとしている。
全 校 練 習	開閉会式の流れを理解しよう	式のリハーサルを行う意義を理解している。		体育祭を全校でより良く始め、終わるために自分のすべきこと等に取り組もうとしている。

予行練習	体育祭に向けた予行練習をしよう	仲間の努力を認め、応援をすることの大切さを理解している。	これまでの自分の取り組みについて振り返っている。	これまでの練習でできたことやこれからの改善点を見付けようとしている。
きょうだい学級練習 ⑤ ⑥ ⑧	予行から見えた課題を基に体育祭に向けて練習をしよう	異年齢の生徒も含め、同じ競技に参加する生徒同士で声をかけ合うことの大切さを理解している。	スローガン「声」を意識し、学級や個人テーマの実現に向けて、他者を認め、励まし、改善のためのアドバイスをしている。また、自分に向けた声に耳を傾けている。	予行練習から見えた課題から、体育祭における各学級や個人のテーマの実現に向けて、スローガンに基づきながら、活動に参加しようとしている。
体育祭本番	体育祭スローガン「声」を意識して全員が楽しいと思い、活躍できる体育祭にしよう	仲間の努力を認め、応援をすることの大切さを理解している。	よりよい体育祭をつくろうとしている。	よりよい体育祭をつくろうとするために、スローガンに基づき何をすべきか考えている。
学級活動	体育祭の振り返りをしよう	仲間と声をかけ合い、スローガンの実現に向けて、活動することの大切さを理解している。	仲間と協力して取り組んだことで、これから学級のために自分ができることを考えている。	体育祭への取り組みを振り返り、自己の成長に気付き、よさを伸ばそうとしている。

6 本時の指導

(1) 議題

- ・体育祭に向けてどのように取り組むのか考えよう

(2) 目指す生徒の姿

- ・体育祭を通して取り組みたいことを考え、クラスのテーマを作成するために合意形成を図ったり、意思決定したりしている。

(3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価（観点・場面・方法）
導入	○教師から今年度の体育祭について変更点などを確認する。	・どういう意図で変更がされたかを考えさせる。	
展開	体育祭に向けてどのように取り組むのか考えよう		
	○体育祭の学級テーマを設定する	・体育祭において達成すべき学級のテーマを確認し、その為にどのような声掛けをしていくかを確認する。 ・なるべく生徒主体で決めさせ、多数決のみではなく、合意形成が図られるように助言する。	思判表 体育祭を通して取り組みたいことを考え、クラスのテーマを作成するために合意形成を図ったり、意思決定したりしている。 (観察)
終末	○振り返り表にクラスのテーマと個人テーマを書く、振り返りの仕方を確認する。 ○アンケートを行う	・振り返りをしながら体育祭活動に取り組む流れを確認する。	

体育祭前アンケートの結果

	1年生	2年生	3年生
①異学年交流をすることは楽しい			
そう思う	65%	33%	32%
ややそう思う	30%	49%	38%
あまりそう思わない	5%	15%	20%
全くそう思わない	1%	3%	10%
②体育祭は楽しみである			
そう思う	62%	47%	49%
ややそう思う	27%	38%	25%
あまりそう思わない	9%	13%	18%
全くそう思わない	2%	2%	8%
スローガン「声」の意味や、振り返りの方法を理解した			
そう思う	59%	37%	34%
ややそう思う	36%	51%	52%
あまりそう思わない	5%	10%	9%
全くそう思わない	0%	2%	5%
振り返りや、具体的な行動目標を示したことで、体育祭でやるべきことは明確になった			
そう思う	52%	30%	21%
ややそう思う	42%	58%	57%
あまりそう思わない	6%	10%	18%
全くそう思わない	0%	1%	4%
③クラスの中ではあなたは認められている			
そう思う	42%	18%	12%
ややそう思う	46%	49%	49%
あまりそう思わない	11%	28%	30%
全くそう思わない	1%	5%	8%
④クラスの人たちから「ありがとう」など感謝を伝えられる			
よくある	46%	24%	15%
時々ある	46%	60%	58%
あまりない	7%	13%	22%
全くない	1%	4%	6%
⑤クラスの人たちから褒められることがある			
よくある	35%	12%	12%
時々ある	48%	56%	42%
あまりない	15%	28%	32%
全くない	2%	4%	14%
⑥クラスや学校の一員として、自分は役に立っている			
そう思う	26%	12%	10%
ややそう思う	52%	41%	31%
あまりそう思わない	19%	35%	37%
全くそう思わない	3%	12%	22%

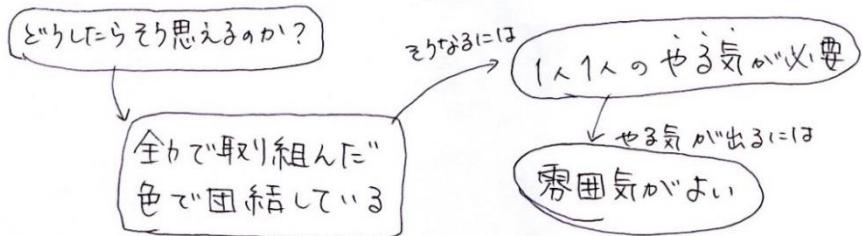
2. 事後の活動

(1) 教師への周知

本研究は私自身が始めたものであるが、全校生徒を巻き込んでの研究となつた。私個人で全校生徒を指導することはできない。体育祭の活動の振り返りが研究の主になるので、各先生方にもプリントを配り、研究の理解と協力をお願いした。

まず、体育祭実行委員と体育祭のこゝあつてほしの姿を考えました。

「体育祭当日 どんな位置であっても楽しめたと思える体育祭になりました」

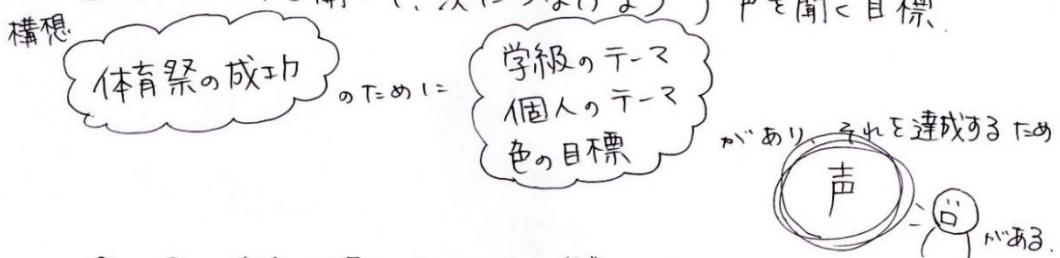


その雰囲気を作るのはお互の声かけが大事なのででは?

ということで「スローガンと声」をしました。では声かけをしようとするところとどういう声かけが良いのか分からぬのででは? とより。

4つの具体的な行動目標を立てました。

- ① ささいなことでもお互い褒め合おう
 - ② 優しく的確な指示を出そう
 - ③ 声を出して全力で応援しよう
 - ④ アドバイスを聞いて、次につなげよう
- } 声を出す目標



①～④の行動目標を行なうことで 体育祭の成功に寄与している。

運動が苦手な子もできる! 教師や生徒みんなで認めています
みんなから認めることで 自己有用感の向上につながる

そのため ①～④の質の向上に日々の振り返り表

認め合うため 名簿の活用 (他人の行動に目を向ける)

まずは同じ種目と小さいながら一緒に声掛け合って

よと思します。全員が全員には少し難儀しいかもです...
色々とご不便をお掛けしますが、ご協力お願いします。

石和卓也

(2) 振り返り

「声」というスローガンをより意識し、そのスローガンをもとに体育祭の活動を行ってもらいたいと感じ、振り返り表を生徒一人ひとりに配付し、練習のあとに記入をする時間を設けた。毎回の練習ごとにスローガン「声」の行動目標に掲げた①～④で意識したい行動目標を選び、その目標に対しての振り返りを行った。その後、次に向けての改善点を記入した。自分自身が練習で取り組む行動目標は練習毎に変えても良いことにした。それぞれの役割や練習内容によって、担う役割が違うと考えたからだ。

また、裏面にはクラスの名簿を貼り、その練習で声を掛けたクラスメイトにしるしをつける表をつくった。自己有用感の育成には他者から認められたという過程が不可欠である。他者を認める「声」を意識するためにも、名簿のチェック欄を作ることで、視覚的に声を掛けた人数を把握し、より他者の行動を「声」で励ます仕組みになるように作成した。

生徒 A 振り返り

10/10	色別①	①	三縄の練習をした。 私は回す方になったので跳ぶ人のタイミングを合わせながら回すこと を意識した。 → ①の振り返りもしよう!!	次の練習ではもっと声をかけ合 三人の中でアドバイスし合いながら行 うことを心がけていきたい。 次は②か?
10/12	色別②	④	色別混合のバトン練習をする時 先輩からバトンは後ろ見すらもちた 方がいいとアドバイスをもらったりで あまり意識できなかった。 残念...	次は今回できなかったアドバイスを し、かり意識はあまり自分から 指示が出せなかったのでルールなど を理解して出せるようにしたい。 しかし次は指示も出せるといい。
10/16	色別③	②	今日は三縄の練習をした。 前回の指示を出せなかた」という 課題があつたのでペア内で声かけ をするよう意識して取り組めた。 まことにいいところからで。	次は自分のペアだけでなく他の ペアとも声をかけあつたりアドバイ スをするよう意識して取り組みたい。 まことにいいところからで。

生徒 B 振り返り

10/16	色別③	④	ハリケーンの練習の時にどうした らもっと速くなるか先生に 聞いてそれを意識してなか 取り組むかんが出来た。	まだアドバイスし合えていない から仲良い子からでもアドバイス するようになる。 お互いに声を出せ!!
10/17	色別④	②、 ④	昨日言われたことを意識して やってみたけどあまり上手く出来なか った。先輩が言っていたことも 出来るようにしたい。今日は 声かけも少し出来た。	ならば「など」の小さな声から も増やしていくように次も 声かけを意識していく。
10/18	予行練	③	リレーの時など大きな声で 応援することができた。 それと当日をイエシして 取り組むことが出来た。	今日言われたこと、教えもら たことを忘れずに当日まで がんばる。
	色別⑤	④	応援が、せんの練習をした。 ダンスはもうおぼえてきたから 歌を歌いながらダンスをおどれ るようになつた。	今日も声を出す。 しっかりと声を口に含めて 響かせる声を!!

IV 成果と課題

本研究の一つの課題であった、体育祭へどのように取り組むかを明確化させるというところであるが、活動の雰囲気やアンケートの結果から見ても例年以上に「声」というスローガンや達成すべき行動目標は生徒たちに浸透していたように思えた。ただ①～④の行動目標は各学年の間で達成したと感じる度合いが違うように感じた。③の応援と④の指示を聞くことに関しては、高い達成率であったが、①の褒めると②指示を出すところでは、少し難しさを感じたようだ。

	1年	2年	3年
スローガン「声」を意識して活動した			
そう思う	64%	42%	47%
ややそう思う	30%	50%	40%
あまりそう思わない	5%	8%	9%
全くそう思わない	1%	1%	3%
振り返りや、具体的な行動目標を示したことで、体育祭でやるべきことが行えた			
そう思う	55%	24%	39%
ややそう思う	41%	65%	48%
あまりそう思わない	4%	10%	11%
全くそう思わない	1%	1%	2%
スローガン① 「ささいなことでもお互い褒め合おう」の達成度は			
よくできた	45%	27%	35%
できた	45%	48%	47%
あまりできなかつた	10%	21%	14%
全くできなかつた	1%	3%	4%
スローガン② 「優しく的確な指示を出そう」の達成度は			
よくできた	24%	12%	22%
できた	45%	35%	54%
あまりできなかつた	26%	41%	20%
全くできなかつた	4%	12%	4%
スローガン③ 「声を出して全力で応援しよう」の達成度は			
よくできた	78%	67%	63%
できた	18%	27%	27%
あまりできなかつた	4%	6%	8%
全くできなかつた	0%	0%	2%
スローガン④ 「アドバイスを聞いて、次につなげよう」の達成度は			
よくできた	61%	46%	40%
できた	33%	47%	50%
あまりできなかつた	6%	6%	8%
全くできなかつた	1%	1%	2%

振り返り表で毎回の練習を振り返ることができていたが、自分のクラスを例にすると、今回の「声」というスローガンは声を出すということも大事であったが、声の質にこだわるということも大事であった。振り返り表には、「もっと声を出す」といった抽象的なフレーズも多く、ただ声を出すというところで応援合戦という種目で声を出す③の達成率が高いのではないかという見方ができる。自己有用感を高めるためには他者に認められるというところが大切であり、もっと①の達成率を高める工夫を凝らすことで、自己有用感を高めることにつながったのではないかと感じた。

また、異年齢で取り組む行事ということもあり、3年生などが下級生に指示を出す場面や励ます場面が多く見られた。異学年で取り組むことは各学年への刺激になり、交流の楽しさを感じる生徒が増えたとアンケートから読み取れる。その後の卒業式の取り組みなど、先輩たちへ感謝を伝える場面や、先輩たちのように来年は頑張るなどの声があり、先輩たちからの影響は大きかったようだ。

	1年	2年	3年
①異学年交流をすることは楽しい			
そう思う	77% (+12)	49% (+16)	50% (+18)
ややそう思う	22% (-8)	40% (-9)	37% (-1)
あまりそう思わない	1% (-4)	8% (-7)	9% (-11)
全くそう思わない	0% (-1)	3% (±0)	4% (-6)
②体育祭は楽しかった			
そう思う	88% (+26)	78% (+31)	79% (+30)
ややそう思う	12% (+15)	16% (-22)	18% (-7)
あまりそう思わない	0% (-9)	5% (-8)	1% (-17)
全くそう思わない	0% (-2)	1% (-1)	3% (-5)

学級と個人のテーマについても作成したこと、意識して動いている生徒が多かったように思えるが、体育祭スローガン「声」と行動目標の達成度を振り返りで行うという仕組みから、「声」に比べると、あまり意識されなかったように思える。ただ、数字は低くないところから、体育祭の始まりでクラスの現状を踏まえ、テーマや方向性を定められた意味はあったようだ

	1年	2年	3年
クラスのテーマ実現に向けて活動できた			
よくできた	56%	37%	37%
できた	42%	55%	49%
あまりできなかつた	1%	8%	10%
全くできなかつた	1%	0%	5%
個人のテーマ実現に向けて活動できた			
よくできた	55%	42%	45%
できた	39%	50%	47%
あまりできなかつた	6%	7%	7%
全くできなかつた	1%	1%	1%

新種目の設立であったが、新しい用具も必要になるということもあり、費用面でも負担が大きく、実現までには、裏で運営委員の先生方に協力をしていただき、本番で実施できた。労力はかかったが、実行委員の生徒が作ったということもあり、特に実行委員の生徒はとても嬉しそうに競技を見ていた。しかし、全校生徒の公募でなかったこともあるのか、全校生徒全員が「生徒のつくった種目」という印象をもつてないようにも感じた。もし可能であれば、前年度から全校生徒より募集し、実現に向けていくことで予算やスケジュールに関してもより余裕をもって実現できるように思える。

本研究のテーマである自己有用感の育成であるが、活動の方向性を示すことで、生徒がそこに向かって行動し、そこから、周りから感謝を伝えられたり、褒められたりする場面が多くなり、「クラスに認められている」という実感が生み出される。それが「クラスの中で役に立っている」という実感を得て、自己有用感につながると予想した。しかし、「クラスに認められている」、「感謝を伝えられた」「褒められた」では、肯定的な項目の数が減少したところが目立った。一方で、「クラスや学校の一員として、自分は役に立っている」という項目だけは肯定的な変化が見られた。スローガンの浸透等も踏まえると、振り返り表なども使い、生徒たちへ何ができたら良いのかということを示し、その行動ができていたことで体育祭の期間の中で少しでも生徒が周りの役に立ったと思える瞬間を作れたと考える。

行事は楽しいと感じる生徒も多いが、目標を見失ってしまうことも多々ある。これは全ての特別活動に当てはまることがある。本研究を通して改めて、方向性を細かく示すことで、自信をもって行動し、生徒にも成長というきっかけを与えることができる。教師は忙しい日々の中でも、ゴールを定め、そこまでの過程を十分に考え、細かくサポートしていくことで生徒にとっての意義は大きく変わらであろう。

	1年	2年	3年
③クラスの中であなたは認められている			
そう思う	31%(-11)	12%(-6)	10%(-2)
ややそう思う	55%(+9)	48%(-1)	53%(+4)
あまりそう思わない	14%(+3)	35%(+7)	32%(+2)
全くそう思わない	0%(-1)	6%(+1)	5%(-3)
④体育祭の活動中にクラスの人たちから「ありがとう」など感謝を伝えられた			
よくある	31%(-15)	18%(-6)	21%(+6)
時々ある	50%(+4)	55%(-5)	51%(-7)
あまりない	16%(+9)	17%(+4)	21%(-1)
全くない	2%(+1)	10%(+6)	7%(+1)
⑤体育祭の活動中にクラスの人たちから褒められることがあった			
よくある	29%(-6)	10%(-2)	13%(+1)
時々ある	50%(+2)	61%(+5)	54%(+12)
あまりない	20%(+5)	19%(-9)	24%(-8)
全くない	1%(-1)	10%(+6)	8%(-6)
⑥クラスや学校の一員として、自分は役に立っている			
そう思う	29%(+3)	8%(-4)	14%(+4)
ややそう思う	53%(-1)	48%(+7)	37%(+6)
あまりそう思わない	15%(-4)	33%(-2)	43%(+6)
全くそう思わない	3%(±0)	11%(-1)	6%(-16)

令和5年度
特別活動 年間指導計画

月	内容	学習指導要領 分類	学級 活動	生徒会活動	学校行事
4月	入学式・始業式	学校行事(1)、生徒会活動(2)		○	○
	学級開き	学級活動(1)-ウ	○		
	組織作り(係)	学級活動(1)-イ	○		
	組織作り(各委員)	学級活動(1)-イ、生徒会活動(1)	○	○	
	学級目標づくり	学級活動(1)-ウ	○		
	遠足・修学旅行に向けて(準備)	学級活動(1)-イ、学校行事(4)	○		○
5月	遠足・修学旅行準備 きまり集会	学級活動(1)-ウ、学校行事(4)	○		○
	合唱コンクールクラス曲決め	学校行事(2)			○
	生徒総会(予算)	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	修学旅行	学校行事(4)			○
6月	遠足	学校行事(4)			○
	生徒総会	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	全校集会(体育祭 色決め)	学校行事(3)			○
7月	体育祭選手決め	学校行事(3)			○
	学年集会	学級活動(1)-ア	○		
	生徒総会	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	終業式	学校行事(1)			○
8月	始業式	学校行事(1)			○
9月	合唱コンクール(準備、練習)	学級活動(1)-ウ、学級活動(2)-ア、学校行事(2)	○		○
	合唱コンクール	学級活動(1)-ウ、学級活動(2)-ア、学校行事(2)	○		○
10月	体育祭に向けて(準備、練習)	学級活動(1)-ウ、学級活動(2)-ア、学校行事(3)	○		○
	体育祭	学級活動(1)-ウ、学級活動(2)-ア、学校行事(3)	○		○
11月	生徒会本部役員選挙(準備)	学級活動(1)-ア	○		
12月	立会演説会・生徒会本部役員選挙	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	学年集会	学級活動(1)-ア	○		
	生徒総会	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	終業式	学校行事(1)			○
1月	始業式	学校行事(1)			○
2月	卒業式(準備、練習)	学校行事(1)、生徒会活動(2)		○	○
3月	卒業式	学校行事(1)			○
	球技大会・レク大会など	学校行事(3)			○
	学年集会	学級活動(1)-ア	○		
	生徒総会	学級活動(1)-ウ、生徒会活動(1)	○	○	
	修了式	学校行事(1)			○
	離・退任式	学校行事(1)、生徒会活動(2)		○	○
年間	班長会議、班改正	学級活動(1)-ア、学級活動(1)-イ	○		
	朝・帰り学活	学級活動(1)-ア	○		

参考文献

- 文部科学省 『中学校学習指導要領解説特別活動編』 平成29年7月
- 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成29年3月
- 文部科学省 『生徒指導提要』 令和4年12月